

愛称：アジアスター 三井住友・アジア・オセアニア好配当株式ファンド

マンスリー・レポート

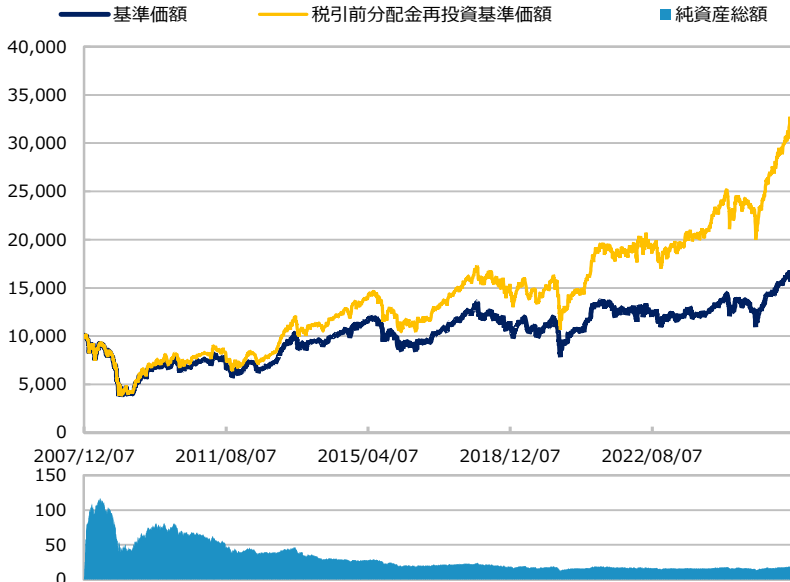
追加型投信／海外／株式

作成基準日：2026年03月31日

ファンド設定日：2007年12月10日

日経新聞掲載名：アジア

基準価額・純資産総額の推移（円・億円）



- グラフは過去の実績を示したものであり将来の成果をお約束するものではありません。
- 基準価額は信託報酬控除後です。信託報酬は後述の「ファンドの費用」をご覧ください。

基準価額・純資産総額

	当月末	前月比
基準価額（円）	15,473	-1,231
純資産総額（百万円）	1,729	-139

- 基準価額は10,000口当たりの金額です。

騰落率（税引前分配金再投資）（%）

	基準日	ファンド
1 カ月	2026/02/27	-7.4
3 カ月	2025/12/30	0.9
6 カ月	2025/09/30	11.6
1 年	2025/03/31	32.5
3 年	2023/03/31	57.1
設定来	2007/12/10	201.4

- ファンドの騰落率は税引前分配金を再投資した場合の数値です。
- ファンド購入時には購入時手数料、換金時には税金等の費用がかかる場合があります。
- 騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。

最近の分配実績（税引前）（円）

期	決算日	分配金
第69期	2025/02/14	440
第70期	2025/05/14	50
第71期	2025/08/14	420
第72期	2025/11/14	50
第73期	2026/02/16	490
設定来累計		7,400

※ 分配金は10,000口当たりの金額です。過去の実績を示したものであり、将来の分配をお約束するものではありません。

資産構成比率（%）

	当月末	前月比
株式	94.1	-0.4
先物等	0.0	0.0
現金等	5.9	+0.4
合計	100.0	0.0

運用概況

当月末の基準価額は、15,473円（前月比-1,231円）となりました。
また、税引前分配金を再投資した場合の月間騰落率は、-7.4%となりました。

※ この資料の各グラフ・表に記載されている数値は、表示桁未満がある場合は四捨五入して表示しています。
※ この資料に記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全てファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



愛称：アジアスター 三井住友・アジア・オセアニア好配当株式ファンド

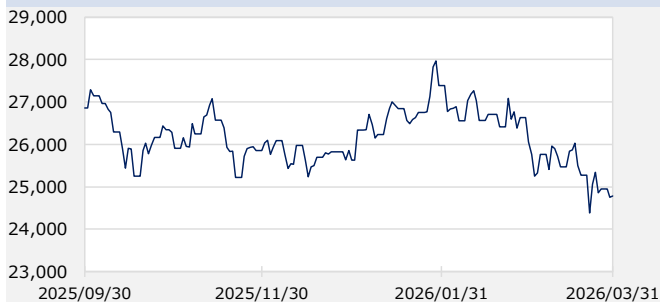
マンスリーレポート

追加型投信／海外／株式

作成基準日：2026年03月31日

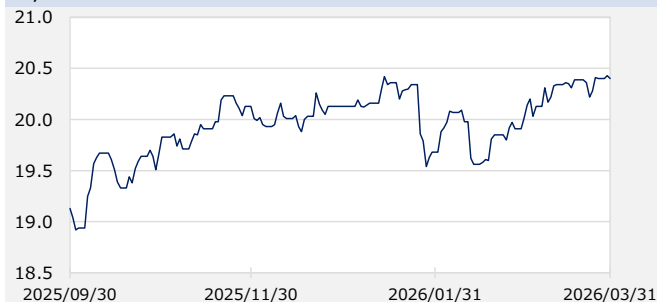
市場動向

ハンセン指数



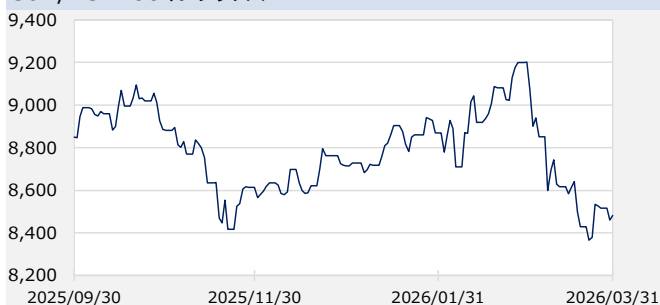
当月末：24,788.1 前月末：26,630.5 騰落率：-6.9%

円/香港ドル (円)



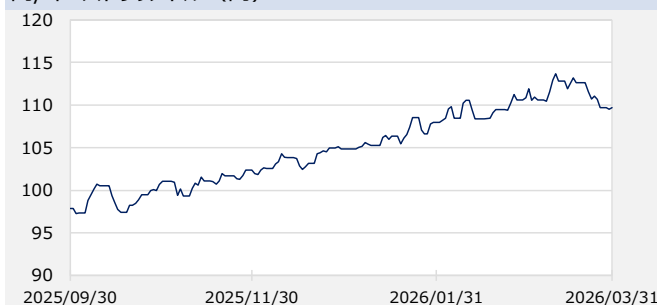
当月末：20.4 前月末：19.9 騰落率：2.5%

S&P/ASX200インデックス



当月末：8,481.8 前月末：9,198.6 騰落率：-7.8%

円/オーストラリアドル (円)



当月末：109.7 前月末：110.6 騰落率：-0.8%

- ※ Bloomberg等のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成。
- ※ インデックス等は注記がある場合を除き、原則として現地通貨ベースで表示しています。
- ※ 為替レートは一般社団法人資産運用業協会が発表する仲値 (TTM) です。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



愛称：アジアスター
三井住友・アジア・オセアニア好配当株式ファンド

マンスリーレポート

追加型投信／海外／株式

作成基準日：2026年03月31日

基準価額の変動要因（円）

全体				株式要因：国・地域		為替要因		
	計	インカム	キャピタル		寄与額		寄与額	
株式	-1,227	+59	-1,287	上位	1 シンガポール	+16	1 香港ドル	+115
先物等	0	0	0		2 フィリピン	-4	2 アメリカドル	+13
為替	+20	-	-		3 ニュージーランド	-9	3 中国元(オフショア)	+6
分配金	0	-	-		4 インドネシア	-11	4 シンガポールドル	+4
その他	-24	-	-		5 中国	-21	5 インドネシアルピア	+3
合計	-1,231	+59	-1,287	下位	1 香港	-471	1 韓国ウォン	-68
					2 台湾	-292	2 オーストラリアドル	-16
					3 韓国	-201	3 タイバーツ	-16
					4 インド	-108	4 インドルピー	-7
					5 オーストラリア	-68	5 フィリピンペソ	-7

※ 基準価額の月間変動額を主な要因に分解したもので概算値です。

ご参考 主要株式指数・為替の騰落率（％）

株式指数（現地通貨ベース）			為替（対円レート）		
	当月			当月	
香港	-6.9		香港ドル	2.5	
韓国	-19.1		韓国ウォン	-3.8	
台湾	-10.4		台湾ドル	0.1	
シンガポール	-2.2		シンガポールドル	0.5	
マレーシア	-1.5		マレーシアリンギット	-1.1	
タイ	-5.2		タイバーツ	-3.0	
インド	-11.5		インドルピー	-1.2	
インドネシア	-14.4		インドネシアルピア	1.1	
フィリピン	-10.0		フィリピンペソ	-2.6	
ベトナム	-10.9		ベトナムドン	1.6	
オーストラリア	-7.8		オーストラリアドル	-0.8	
ニュージーランド	-6.7		ニュージーランドドル	-1.7	
アメリカ	-5.1		アメリカドル	2.6	

※ 株式指数は、ハンセン指数（香港）、KOSPIインデックス（韓国）、加権インデックス（台湾）、STインデックス（シンガポール）、KL総合インデックス（マレーシア）、SETインデックス（タイ）、SENSEXインデックス（インド）、ジャカルタ総合インデックス（インドネシア）、フィリピン総合インデックス（フィリピン）、ベトナムVNインデックス（ベトナム）、S&P/ASX200インデックス（オーストラリア）、NZSXインデックス（ニュージーランド）、S&P500インデックス（アメリカ）です。

※ Bloomberg等のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成。

※ 為替レートは一般社団法人資産運用業協会が発表する仲値（TTM）です。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



ポートフォリオ特性値 (%)

	当月末	前月比
配当利回り	4.7	+0.8

- ※ 各組入銘柄の数値を加重平均した値です。
- ※ 配当利回りは予想配当利回りです。
- ※ Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成。
- ※ 上記は将来の運用成果をお約束するものではありません。

地域の内訳 (%)

	当月末	前月比
アジア	80.3	-0.7
オセアニア	13.7	+0.3

香港の内訳 (%)

	当月末	前月比
H株	7.7	-0.4
レッドチップ	5.6	-0.1
その他	15.9	+0.7
合計	29.2	+0.3

組入上位10カ国・地域 (%)

	当月末	前月比
1 香港	29.2	+0.3
2 台湾	19.1	-0.8
3 オーストラリア	13.0	+0.3
4 韓国	10.2	-0.9
5 シンガポール	6.7	+0.6
6 インド	4.0	+0.0
7 タイ	3.3	-0.0
8 中国	2.4	+0.1
9 マレーシア	2.2	-0.1
10 フィリピン	1.7	+0.0

地域別 組入上位10通貨 (%)

アジア			オセアニア		
	当月末	前月比		当月末	前月比
1 香港ドル	29.2	+0.3	1 オーストラリアドル	13.0	+0.3
2 台湾ドル	19.1	-0.8	2 ニュージーランドドル	0.8	-0.0
3 韓国ウォン	10.2	-0.9			
4 シンガポールドル	6.7	+0.6			
5 インドルピー	4.0	+0.0			
6 タイバーツ	3.3	-0.0			
7 中国元(オフショア)	2.4	+0.1			
8 マレーシアリングgit	2.2	-0.1			
9 フィリピンペソ	1.7	+0.0			
10 インドネシアルピア	1.6	+0.1			

組入上位10業種 (%)

	当月末	前月比
1 銀行	21.3	+1.5
2 テクノロジ・ハードウェア・機器	10.4	-1.2
3 資本財	7.5	-0.7
4 耐久消費財・アパレル	6.6	-0.8
5 公益事業	5.8	+0.0
6 半導体・半導体製造装置	5.3	-0.6
7 金融サービス	5.1	+0.2
8 一般消費財・サービス流通・小売り	4.6	+1.0
9 素材	3.7	-0.1
10 保険	3.6	-0.2

※ 業種はGICS（世界産業分類基準）による分類です。「その他」とはインフラファンド等を指します。

愛称：アジアスター 三井住友・アジア・オセアニア好配当株式ファンド

マンスリーレポート

追加型投信／海外／株式

作成基準日：2026年03月31日

組入上位10銘柄（％）

（組入銘柄数 72）

銘柄 国・地域/業種	配当 利回り	比率	コメント
1 ASEテクノロジー・ホールディング 台湾 半導体・半導体製造装置	2.5	3.5	半導体製造工程のうち、「後工程」と呼ばれるパッケージングやテスト事業の世界大手。AI（人工知能）向けの高性能半導体チップの需要拡大とともに、先進パッケージングなどの高収益事業の拡大、増益増配が期待される。
2 DBSグループ シンガポール 銀行	5.7	3.2	シンガポールを代表する金融機関。資産規模は東南アジアで最大であり、また香港や中国など中華圏でも積極的に事業を展開。シンガポール政府が傘下の投資ファンドを通じて発行済株式の3割程度を保有する。
3 招商銀行 香港 銀行	4.5	2.9	広東省深セン市に本拠を置く中国の中堅商業銀行。都市部でのリテール網を強みに、多様なサービスを提供。預金調達コストが低いことも強味。
4 アクター・グループ 台湾 資本財	4.4	2.8	半導体関連向けなどにクリーンルームの設計や建設を手掛ける台湾のエンジニアリング会社。AI（人工知能）関連市場の成長などを背景とした半導体生産能力の拡大に恩恵を受ける。
5 KBフィナンシャル・グループ 韓国 銀行	3.2	2.7	韓国を代表する大手金融グループ。個人向け、中小企業向けの銀行業務に強味を持つほか、傘下には、クレジットカード、保険、証券などの幅広い業態の子会社を有する。
6 サムスン電子 韓国 テクノロジー・ハードウェア・機器	3.6	2.6	韓国を代表する電子機器・電気製品メーカー。DRAMやNAND型フラッシュメモリといった半導体や携帯電話、家電、液晶用パネルが事業の柱で、世界的なトップメーカー。
7 オーバーシー・チャイニーズ銀行 シンガポール 銀行	4.4	2.6	シンガポールの3大銀行グループの一角。主力の銀行事業のほか、保険事業、資産運用事業なども手掛ける。マレーシア、インドネシアなどアセアン諸国のほか、現地銀行に対する買収や出資により香港、中国本土においても事業展開。
8 長江基建集団 香港 公益事業	4.2	2.4	インフラ資産を中心とする投資・運営会社。香港、オーストラリア、英国などで、電力、ガス、水道などのインフラ事業を行う。配当を通じた株主還元と買収による事業の拡大を両立している。
9 HKTトラストアンドHKT 香港 その他	7.0	2.3	香港の電気通信会社。モバイル通信やインターネットサービスなどを提供する。5G関連サービスの浸透などによる安定的な売上成長が期待されるほか、高い配当利回りが魅力的。
10 申洲国際ホールディング 香港 耐久消費財・アパレル	6.3	2.3	スポーツウェアやカジュアルウェアのメーカーで、ナイキ、アディダス、プーマ、ユニクロなど世界中に顧客を持つ。当社は環境に配慮した繊維の使用や古着のリサイクルを強化しており、消費者の意識の高まりとともに単価の上昇と利益率の向上が見込まれる。

※ 配当利回りは予想配当利回りです。

※ Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成。

※ 上記は将来の運用成果をお約束するものではありません。

※ 組入銘柄の紹介を目的としており、記載銘柄の推奨を行うものではありません。また、記載内容は作成時点のものであり、将来予告無く変更されることがあります。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



ファンドマネージャーコメント

＜市場動向＞

アジア・オセアニア株式市場は、下落しました。

米国株式市場は下落しました。中東における紛争を受け、スタグフレーション（景気停滞とインフレの併存）が懸念されたほか、早期の利下げ期待が後退したことも下押し要因となりました。

香港市場は下落しました。中東における紛争を受けた世界経済の減速懸念を背景に、中国の輸出や経済成長の見通し悪化が警戒されたほか、香港政府が2月下旬に高価格帯の住宅不動産取引に対する印紙税率の引き上げを発表したことなどから、不動産関連銘柄が軟調に推移しました。その他の市場では、中東における紛争を受け、原材料の調達懸念から半導体関連株が軟調に推移した韓国や台湾が下落しました。加えて、韓国やインドなどでは、原油の輸入における中東への依存度が高いことから、中東情勢の悪化が国内経済に及ぼす影響への警戒感が高まりました。また、インフレ懸念を受けて中旬に利上げを実施したオーストラリアも下落しました。

＜運用経過＞

当月は、インドの政府系銀行のバロダ銀行や中国の電子商取引大手のJDドットコムなどを購入しました。一方、インドのソフトウェア企業のHCLテクノロジーや中国の通信インフラサービスなどを提供する中国通信サービスなどを売却しました。

＜市場見通しと今後の運用方針＞

世界の株式市場は、トランプ大統領による強硬的な政策姿勢に対して国際的な不信感が高まっており、相場の波乱要因となっています。また、エネルギー価格の上昇も経済活動に対する懸念材料です。ただし、ホルムズ海峡の安全確保などに伴いインフレ懸念が一時的なものとなれば、金融財政政策の発動余地は残っています。年央に向かって、財政投入による景気押し上げ効果に加えて、企業業績の堅調さが続くとの見方から、徐々にレンジを切り上げる展開を予想します。

アジア・オセアニア株式市場は、米中の貿易協議を巡る不透明感や中東における紛争などがリスク要因として残ります。一方、テクノロジー産業への投資や生産拡大が景気を下支えていることから、底堅い推移が見込まれ、また中国人民銀行（中央銀行）による金融緩和の継続や政府による消費刺激策などの政策的支援、新興国向けを中心とした底堅い輸出などが中国景気を下支えするとみられる点も、株式市場の支援材料となります。変動性が高まりやすい株式市場にあって、今後も本業からのキャッシュフロー創出力に優れ、財務体質が良好な優良銘柄を中心にポートフォリオを構築します。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント Be Active.

ファンドの特色

- 主として日本を除くアジア・オセアニア各国・地域の好配当の株式に投資し、配当収益の確保と信託財産の安定した成長を目指します。
 - 主な投資対象となる国・地域は中国、韓国、台湾、香港、インド、シンガポール、マレーシア、インドネシア、タイ、フィリピン、ベトナム、オーストラリア、ニュージーランド等とします。
- 銘柄選定に当たっては、好配当利回り銘柄*を中心に、成長性・財務健全性等も勘案し、厳選した銘柄を組み入れます。
 - * 好配当利回り銘柄とは
ファンドでは配当利回りが市場平均を上回る銘柄のほか、配当の安定性・成長性、企業業績や株価の割安度等からみて魅力があると考えられる銘柄をいいます。
 - 配当利回りとは、株価に対する実績年間配当金の割合（1株当たり実績年間配当金÷株価）です。
- 実質的な運用は、スミモ ミツイ DSアセットマネジメント（ホンコン）リミテッドが行います。
 - 当ファンドの運用の指図に関する権限の一部を、スミモ ミツイ DSアセットマネジメント（ホンコン）リミテッドに委託します。
 - ※スミモ ミツイ DSアセットマネジメント（ホンコン）リミテッドは、委託会社の子会社（100%出資）であり、委託会社の信託報酬の中から、運用指図権限の委託にかかる報酬を受領します。
- 外貨建資産については、原則として対円で為替ヘッジを行いません。
 - ただし、基準価額に重大な影響を与えると判断される政治・経済、金融情勢が生じた場合は、弾力的に対応します。
- 年4回決算を行い、収益分配することを目指します。
 - 配当等収益を中心に毎期分配することを目指します。2月、8月の決算時には売買益等から、基準価額水準・市況動向等を勘案して分配することを目指します。
 - 委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

※ 資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

投資リスク

基準価額の変動要因

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 運用の結果として信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。
- 投資信託は預貯金と異なります。また、一定の投資成果を保証するものではありません。
- 当ファンドの主要なリスクは以下の通りです。

■ 株式市場リスク

【株価の下落は、基準価額の下落要因です】

内外の経済動向や株式市場での需給動向等の影響により株式相場が下落した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、個々の株式の価格はその発行企業の事業活動や財務状況等によって変動し、株価が下落した場合はファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 信用リスク

【債務不履行の発生等は、基準価額の下落要因です】

ファンドが投資している有価証券や金融商品において債務不履行が発生あるいは懸念される場合、またはその発行体が経営不安や倒産等に陥った場合には、当該有価証券や金融商品の価格が下がったり、投資資金を回収できなくなったりすることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

投資リスク

■ 為替変動リスク

【円高は基準価額の下落要因です】

外貨建資産への投資は為替変動の影響を受けます。ファンドが保有する外貨建資産の価格が現地通貨ベースで上昇する場合であっても、当該現地通貨が対円で下落する（円高となる）場合、円ベースでの評価額が下落し、基準価額が下落することがあります。

■ カントリーリスク

【投資国の政治・経済等の不安定化は、基準価額の下落要因です】

海外に投資を行う場合には、投資先の国の政治・経済・社会状況の不安定化、取引規制や税制の変更等によって投資した資金の回収が困難になることや、その影響により投資する有価証券等の価格が大きく変動することがあり、基準価額が下落する要因となります。

特に投資先が新興国の場合、その証券市場は先進国の証券市場に比べ、より運用上の制約が大きいことが想定されます。また、先進国に比べ、一般に市場規模が小さいため、有価証券の需給変動の影響を受けやすく、価格形成が偏ったり、変動性が大きくなる傾向が考えられます。

■ 流動性リスク

【市場規模の縮小・取引量の低下により、不利な条件での取引を余儀なくされることは、基準価額の下落要因です】

有価証券等を大量に売買しなければならない場合、あるいは市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等に、十分な数量の売買ができなかったり、通常よりも不利な価格での取引を余儀なくされることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

その他の留意点

〔分配金に関する留意事項〕

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。
- ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性、換金申込みの受け付けが中止となる可能性、既に受け付けた換金申込みが取り消しとなる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性等があります。



お申込みメモ

購入単位

お申込みの販売会社にお問い合わせください。

購入価額

購入申込受付日の翌営業日の基準価額

購入代金

販売会社の定める期日までにお支払いください。

換金単位

お申込みの販売会社にお問い合わせください。

換金価額

換金申込受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を控除した価額

換金代金

原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目からお支払いします。

信託期間

無期限（2007年12月10日設定）

決算日

毎年2月、5月、8月、11月の14日（休業日の場合は翌営業日）

収益分配

決算日に、分配方針に基づき分配を行います。委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

分配金受取りコース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、決算日から起算して5営業日目までにお支払いいたします。

分配金自動再投資コース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、無手数料で再投資いたします。

※販売会社によってはいずれか一方のみの取扱いとなる場合があります。

課税関係

- 課税上は株式投資信託として取り扱われます。
- 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に限りNISA（少額投資非課税制度）の適用対象となります。
- 当ファンドは、NISAの対象ではありません。
- 配当控除および益金不算入制度の適用はありません。

お申込不可日

以下に当たる場合には、購入・換金のお申込みを受け付けません。

- 香港の取引所の休業日



ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

- 購入時手数料
購入価額に**3.30%（税抜き3.00%）**を上限として、販売会社毎に定める手数料率を乗じた額です。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 信託財産留保額
換金申込受付日の翌営業日の基準価額に**0.30%**を乗じた額です。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

- 運用管理費用（信託報酬）
ファンドの純資産総額に**年1.694%（税抜き1.54%）**の率を乗じた額です。
- その他の費用・手数料
以下のその他の費用・手数料について信託財産からご負担いただきます。
 - 監査法人等に支払われるファンドの監査費用
 - 有価証券の売買時に発生する売買委託手数料
 - 資産を外国で保管する場合の費用 等※上記の費用等については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※ 上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

税金

分配時

所得税及び地方税 配当所得として課税 普通分配金に対して20.315%

換金（解約）及び償還時

所得税及び地方税 譲渡所得として課税 換金（解約）時及び償還時の差益（譲渡益）に対して20.315%

- ※ 個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。法人の場合は上記とは異なります。
- ※ 外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。
- ※ 税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

委託会社・その他の関係法人等

委託会社	ファンドの運用の指図等を行います。 三井住友DSアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第399号 加入協会：一般社団法人資産運用業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会 ホームページ：https://www.smd-am.co.jp コールセンター：0120-88-2976 [受付時間] 午前9時～午後5時（土、日、祝・休日を除く）
受託会社	ファンドの財産の保管および管理等を行います。 三井住友信託銀行株式会社
販売会社	ファンドの募集の取扱い及び解約お申込の受付等を行います。
投資顧問会社	ファンドの運用指図に関する権限の一部の委託を受け、投資信託財産の運用を行います。 スミモ ミツイ DS アセットマネジメント（ホンコン）リミテッド

販売会社

販売会社名	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	資産運用業協会	一般社団法人金物取引業協会	日本S T O 協会	備考
株式会社三井住友銀行	登録金融機関 関東財務局長（登金）第54号	○	○		○		※1

備考欄について

※1：新規の募集はお取り扱いしていません。

当資料のご利用にあたっての注意事項

- 当資料は、三井住友DSアセットマネジメントが作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、将来に関し述べられた運用方針・市場見通しも変更されることがあります。当資料は三井住友DSアセットマネジメントが信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 投資信託は、値動きのある証券（外国証券には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、リスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって元本や利回りが保証されているものではありません。
- 投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また登録金融機関でご購入の場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。
- 当ファンドの取得のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書（交付目論見書）および契約締結前交付書面等の内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。投資信託説明書（交付目論見書）、契約締結前交付書面等は販売会社にご請求ください。また、当資料に投資信託説明書（交付目論見書）と異なる内容が存在した場合は、最新の投資信託説明書（交付目論見書）が優先します。

■ 設定・運用